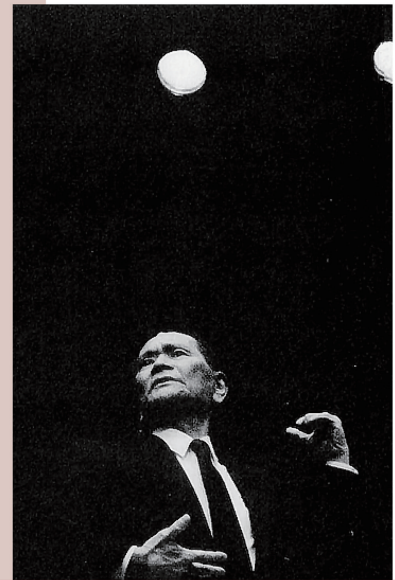


イカイノ物語

マルセ太郎 傑作喜劇選



マルセは
読んでも
すごい！

マルセ太郎の語りを聞いていて
常に思うことは、
ああこの人は当たり前のことを
いっているんだ、という納得である。



推薦

映画監督 山田洋次

あけび書房

四六版並製 312 ページ ISBN978-4-87154-288-3 C0074
定価 3000 円 (本体価格 2727 円+税)

マルセはかねがね「芝居は俳優だ」と言っていた。

俳優を見せることであり、観客もまた俳優を楽しむものだ。

特に喜劇はそうであると確信している。

カーテンコールでは毎回演者への賛辞を惜しまなかった。

しかし、本当に活字ではマルセの意図することは届かないのだろうか。

(梨花「マルセ太郎の『台本』」より)

喜劇とは：愛なんだ

「思考する芸人」の人生賛歌3作品

■目次 花咲く家の物語／イカイノ物語／春雷／マルセ太郎の「台本」(梨花)

マルセ太郎 略歴

1933 年、大阪・猪飼野に生まれる。1954 年、新劇俳優を志して上京。芸名の由来でもあるマルセル・マルソーの舞台を見て感動。1957 年、日劇ミュージックホールでパントマイムを演じてデビュー。その後、浅草松竹演芸場や全国各地のキャバレーなどをまわって芸を磨く。1980 年(申年)には、持ちネタの一つであるサル of 形態模写で注目を浴びる。

1985 年、映画をひとりで語って演じる独創的な映画再現芸、「スクリーンのない映画館」を開拓(『泥の河』『生きる』『息子』ほか)。さらに実在の人物を語る立体講談など、話芸の領域を広げる。

1993 年、マルセカンパニーを率いて喜劇『黄昏に踊る』を発表。以降、『つるかめ荘は今日もワルツ』『枯れない人々』『真夏の夜の哀しみ』(改訂版『北の宿にハトが泣く』『花咲く家

の物語』『役者の仕事 パパが白塗りでやってくる』『イカイノ物語』『春雷』を作・演出・出演。老人ホーム、離婚調停、芸人の通夜、障がい者のグループホーム、大衆演劇一座、在日朝鮮人一家、ホスピスを題材とした喜劇で好評を博する。

2001 年他界。

著書に『芸人魂』『奇病の人』、関連書籍に『マルセ太郎 記憶は弱者にありー喜劇・人権・日本を語る』(森正編著)『写真集「芸人マルセ太郎」』(角田武撮影・武居智子編著)『まるまる一冊マルセ太郎』(マルセ太郎・山田洋次・矢野誠一・永六輔他)『マルセ太郎読本一芸と魂・舞台裏・人間を語る』(「マルセ太郎読本」刊行委員会編)『マルセを生きる！一芸人マルセ太郎に魅入られた人たち』(梨花 / 「マルセを生きる！」刊行委員会編)など。

ご記入の上、最寄りの書店あるいはあけび書房へご注文下さい。

注文書	書店印・取扱先		イカイノ物語 マルセ太郎傑作喜劇選		注文数
	団体名		氏名		冊
	送り先	〒()-()	電話番号		
	その他備考				

取次帖合：日販・トーハン・楽天ブックスネットワーク・中央社・大学図書・日教販・全官報・新日本図書・欽谷書店・JRC

発行：あけび書房 TEL.03-5888-4142 FAX.03-5888-4448 E-mail : info@akebishobo.com